

2018年6月28日

各 位

JXTGホールディングス株式会社

会長・社長就任挨拶について

本日、JXTGホールディングス本社(東京都千代田区)にて行われました、当社会長 内田 幸雄および社長 杉森 務の社員に向けた「就任挨拶(要旨)」を下記の通り、お知らせいたします。

記

<会長 内田 幸雄 就任挨拶>

6月27日の株主総会および取締役会で、当社グループの役員体制が決定すると共に、当社は「監査役等委員会設置会社」に移行した。新体制のスタートにあたり、JXTGグループのおかれている事業環境を共有したうえで、経営にあたっての基本姿勢を申し上げる。

1. 事業環境

低炭素社会の形成に向けた動きが加速し、世界の投資家や事業会社の中には、低炭素化に止まらず「脱炭素化」に向けて踏み出す動きも出てきている。一方、IoTやAIといったイノベーションは日進月歩で進化している。非連続的かつ劇的な変化の局面においては、従来からの延長線上で考えるのではなく、変化の先の将来を見据え、複眼的に物事を考える力が必要になる。今年度策定予定の当社グループの長期ビジョンにおいては、この点を意識して徹底的に議論してほしい。

2. グループ経営における基本的な考え方

(1)「コンプライアンス」と「安全」の徹底

社会的使命を果たすための根幹は「コンプライアンス」と「安全」であり、どのような時代になっても変わることはない。一度、「コンプライアンス上の不祥事」や「安全にかかわる重大事故」で社会からの信頼を失えば、その信頼を回復することは容易ではない。「コンプライアンス」と「安全」の重要さを肝に銘じ、徹底して取り組んでほしい。

(2)ステークホルダーを意識した経営

様々なステークホルダーに支えられて事業を行っており、皆様と長期的な信頼関係を構築することが、事業継続と成長には不可欠である。JXTGグループの理念を誠実に実践することが、ステークホルダーとの長期的な信頼関係の構築につながることを胸に刻み、日々の業務に当たってほしい。

(3)変革しつづけること

将来に亘り、着実な成長を遂げていくためには、変革に挑戦し続けることが重要である。「固定観念」や「前例踏襲」

にとられることなく、業務の必要性をよく考え、効果の低い業務などの見直しに挑戦し、改善し続けることが「変革を推進する風土の醸成」につながり、「働き方改革」にもなる。変革を「見える化」し、発信できるように取り組むことができれば、社員ひとりひとりが変革を意識し、自ら変革に取り組む好循環につながると考えている。

3. 最後に

統合二年目の今年は、私たちの真価が問われる年になることを肝に銘じてほしい。また、JXTGグループの成長と発展のためには、統合基幹業務システムの導入にとどまらず、サプライチェーン全体で様々な構造改革の計画の具体化に着手するなど、JXTGグループを挙げて取り組む必要がある。構造改革はこれからである。共に頑張っていきましょう。

<社長 杉森 務 就任挨拶>

JXTGグループ全体の舵取りを任されることになり、その重責に身が引き締まる思いである。統合初年度は、中期経営計画の目標を上回る実績を収めることができ、新しいグループとして良いスタートを切ることができた。しかし、当社は歩み始めたばかりである。短期的な成果に一喜一憂することなく、将来を見据えて、常に挑み続ける必要がある。そのために、「JXTGグループを取り巻く環境」と「今後の課題」、そして「私の思い」を申し上げる。

1. JXTGグループを取り巻く環境

中長期的にJXTGグループの事業環境はさらに厳しくなることが見込まれている中、いかに成長戦略を具現化していくかが重要である。売上高や経常利益といった財務面のみではなく、社会的責任への向き合い方が企業価値を大きく左右する時代がすでに到来している。近年関心が高まっているESG(環境・社会・ガバナンス)に正面から向き合い、具体的な形として経営に取り込んでいく必要がある。

2. 今後の課題

(1) 今期中期経営計画(2017~2019年度)

基本方針は、「キャッシュフローと資本効率を重視した経営を推進し、環境変化に適応可能な収益基盤および財務基盤を確立する」ことであり、将来に向けた成長戦略への土台作りである。設定した経営目標の達成に向けて、取り組むべき重点課題を申し上げる。

①グループ共通

中期経営計画を確実に達成するために、現在の進捗状況と課題を確認して、残り2年間で、いつ・なにを・どこまでやるのかを見える化し、関係者全員と共有したうえで、しっかり取り組んでほしい。また、2018年度から、各事業におけるROICの目標を設定している。中期経営計画で掲げる、「キャッシュフローと資本効率を重視した経営」を実践していく。

②エネルギー事業

「徹底した事業変革」によって、アジア有数の総合エネルギー企業への飛躍を目指す。コア事業である石油精製販売・化学品分野での徹底した効率化を実現する必要がある。昨年度の取り組みを足掛かりに、収益・財務基盤のさらなる強化に向けた施策を展開しなければならない。また、電力・ガス・水素・海外事業や技術立脚型事業など、持続的な成長に必要不可欠な次世代の柱となる事業の育成・強化に挑戦し続けなければならない。

③石油・天然ガス開発事業

「選択と集中」を徹底し、原油市場が低迷した環境にも耐え得る強靱な体質の構築を目指す。今年度は、「英国北海、マレーシア、インドネシア」で開発中の各プロジェクトを計画どおりに進捗させ、着実なキャッシュフローの創出に取り組むと共に、東南アジアや中東を中心とした優良資産の獲得を検討する必要がある。一方、石油開発分野における技術戦略の核として、老朽化した油田に二酸化炭素を圧入し、原油の増産につなげるCO₂-EORプロジェクトが昨年度より米国にて稼働しており、今年度は損益改善に取り組むと共に、知見・技術を蓄積していく。

④金属事業

主力事業の競争力強化と次世代の柱となる事業の育成・強化を目指す。主力事業においては、チリのカセロネス銅鉱山の抜本的な基盤強化を図るべく、カセロネス事業部を設置した。より機動的かつ一元的な管理体制を構築し、安定操業の確立と生産性の向上やコスト削減により、損益改善を早急に実現しなければならない。また、次世代の柱となる事業においては、IoTやAIの普及により市場拡大が見込まれるタンタル・ニオブ製品の開発・製造・販売を行うH.C.Starck Tantalum and Niobium GmbH社を買収する。販売体制・管理体制や情報システムなどを有機的に機能させることにより、次世代の柱として育成・強化していく。

(2)JXTGグループ長期ビジョンおよび次期中期経営計画の策定

持株会社であるJXTGホールディングスにおいて取り組むべき重要課題は、JXTGグループ長期ビジョンの策定である。JXTGグループの経営戦略として、「社会・経済の発展と持続可能で活力ある未来づくりに貢献するために、基幹事業の強化・イノベーションの推進・グローバルな事業展開を図ること」および「高い倫理観とチャレンジ精神を持った人材を育成し、国際的な競争力を有するアジア有数の総合エネルギー・資源・素材企業グループになること」を宣言している。2030年、2040年に向けて、ESG対応も踏まえて、JXTGグループ全体のビジョンを具体化する必要がある。また、2020年度からの次期中期経営計画において、施策を具体化し、確実に実行・変革していく。これが、私の重要なミッションであると考えている。

3. 最後に

事業環境が急速に変化する中で、将来の確たる成長戦略を描いていくためには、会社の風土や社員の意識に至るまで、会社全体を時代の変化や将来の事業のあり方に相応しいものに「変革」する必要がある。私が一番重要であると考え「変革」は、一人ひとりの「意識改革」である。「個」が変わらなければ全体は変わらない。私が先頭に立って、変

革推進するので、変革する意識を持ってついてきてほしい。また、どんなに厳しい状況であっても、団結すれば大抵の障害は乗り越えることができる。私は、日頃から「対話」の機会を積極的に持つことで信頼関係をより強固にし、そこから生まれる団結力をもってJXTGグループの発展のために様々な課題に挑戦していく。事業環境が激しく変化する中、JXTGエネルギーの経営に携わり、「昨日と同じように、今日、明日を生きようとするものは生き残れない」ということを痛感した。「変革」「対話」そして「挑戦」こそが、当社グループの未来をつくるキーワードであると確信しており、経営も率先して行動していく。経営・従業員が一体となって、より良い未来を一緒に創り上げていきましょう。

以 上